

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2136号 2012年11月05日(月曜日)

## 《 too close to call 》

「オハイオでは依然としてオバマがわずかに優位だ」「ハリケーン・サンディで経済の停滞から有権者の目が離れたのはオバマにとって有利なのでは」などいろいろな“オバマ優位”の見方も伝えられるものの、依然として6日に迫った米大統領選挙は「one of the closest presidential elections in U.S. history」(ウォール・ストリート・ジャーナル)とか「too close to call」(ロイター)と見るのが控えめながら正しいようです。

オバマの大統領選挙運動には2008年の時のような熱気がないのは明らかです。それはこの4年間の米経済が直面した苦境の反映でもあるし、彼が約束したことのかなりの部分が履行されなかったことによる。それは客観情勢が良くなかったとも言えるが、少なくとも彼が有権者に与えた夢がかなりの部分幻に終わったことは明らかです。オサマ・ビン・ラディンは殺害したが、対イランやシリアを中心にアメリカの外交政策の限界が表面化しているし、アメリカという国の影響力をどこまで使うかをアメリカ人そのものが迷っている。

これは、直近の10月の米雇用統計の非農業部門就業者数が予想の12万5000人を上回って17万1000人になったということくらいでは消し去ることが出来ない事実である。オバマにとって「8%のレベルを下回って選挙を迎えられる」(10月は7.9%だった)のは良い。しかし今回のアメリカの大統領選挙では、人種的バックラッシュの傾向も見られる。ワシントン・ポストによると、2008年に比べると特に白人の男性の間で「オバマを今回は支持しない」とする向きが増えているとも伝えられる。

しかし一方で、では次の大統領を共和党のロムニー候補に託して良いのかという問題に立ち至ると、依然としてそれに躊躇する有権者がいる、という事実がある。特に女性の間ではロムニー候補に拒否感を示す向きが多い。ロムニーは依然としてアフリカ系アメリカ人、スペイン系などアメリカで人口を増やしている層に全く支持者を増やせていないし、同じ保守系でも「ロムニーは支持しない」とする向きも多い。その結果は世論調査にもよるが48対47(支持率調査)でオバマが僅かに優位だとか、「48対48」で全くの互角という数字になっていたりしている。

州別に見ても、「オハイオは僅かにオバマ優位だ」「フロリダはロムニーが優位に」とかいう報道もあれば、「オハイオでもフロリダでも二人はほぼ並んだ状態」とする見方もあって、「要するにふたを開けなければ分からない」というのが実情のようだ。ブッシュ・ゴア

の戦いのように、「ある一つの州のごく僅かな票の出具合での勝負」という展開も予想される。選挙戦がタイトであるが故に、オバマ、ロムニーの二人の候補者のこの週末は忙しかった。二人とも一日に激戦州数州を回るスケジュールをこなした。アメリカの大統領選挙は「即日開票」が原則なので、日本時間の7日の正午頃には大勢が出てくるかも知れないが、しかし「one of the closest presidential elections in U.S. history」ということであれば、結果判明は週の半ばを過ぎるかも知れない。

### 《 G20 in Mexico 》

米大統領選挙が終盤になって盛り上がる一方で、「どちらが大統領になっても、選挙後のアメリカ経済の舵取りは容易ではない」との見方も出来る。「財政の崖」をどう乗り越えたらよいのかは議会での勢力地図がどう変わるかでも変わってくるので、今の段階では言えない。「金融が絶対的に緩和状態になっている」という状況はあるし、今まであまり明るい話題がなかったアメリカ経済に「住宅」を中心に復活の兆しがあることからニューヨークの株価は13000ドルを割ることなく比較的しっかりした展開を示している。

しかし大統領選挙が盛り上がれば盛り上がるほど、マーケットは「大統領が誰であれ、その大統領が選べる政策の選択肢は、財政の限界故に狭まっている」という事実を忘れないだろう。依然としてアメリカ経済は世界最大の経済規模を誇るが、戦後の「世界のGDPの半分」の地位からは大きく後退して、「世界経済の波にのまれるアメリカ経済」という事情が強まっている。よって「どちらが勝ったら株が上がる、ドルが強くなる」と言い切るのはなかなか難しい。ドル・円について言えば、ロムニー勝利の方にドルの上値余地があるのかも知れないが、オバマが勝てばドル安という見方は短絡的過ぎるだろう。ドルはキャタピラーが国内に職を戻すほど十分に各国通貨に対して安くなったとも言えるからだ。

「世界経済の波」という視点では、今週は月曜日の5日からメキシコでG20財務相・中央銀行総裁会議が開かれる。ヨーロッパは財務危機対策の進展具合を報告し、アメリカと日本は「財政の崖」への対応を聞かれ、中国やインドは国内経済浮揚のために経済・金融政策を問われる事になる。しかし即効的な世界経済への処方箋があるわけではない。

ブラジルの財務相が欠席を決めている他にもかなりの数の欠席が予想される。「話し合っても劇的な結果は期待出来ない」ことが明らかな以上、「それ以上に国内に重要な事がある」と考える人、国があるとしても領ける。今回のG20は、発足したときに比べると遙かに注目度が低いものになる。

今週の主な予定は以下の通り。

- |          |                           |
|----------|---------------------------|
| 11月4日(日) | G20財務相・中央銀行総裁会議(5日まで)     |
| 11月5日(月) | 米10月ISM非製造業景気指数<br>休場/ロシア |

1 1月6日 (火)	米大統領選挙・議会選挙 豪金融政策委員会
1 1月7日 (水)	ユーロ圏9月小売売上高
1 1月8日 (木)	9月機械受注 9月国際収支 10月景気ウォッチャー調査 中国共産党第18回全国代表大会開会 (1週間程度の見込み) ECB理事会 ユーロ圏臨時財務相会合 米新規失業保険申請件数 米9月貿易収支
1 1月9日 (金)	10月消費動向調査 韓国金融政策委員会 中国10月消費者物価 生産者物価 小売売上高 鉱工業生産 中国1-10月固定資産投資 米11月ミシガン大学消費者信頼感指数 (速報) 米9月卸売在庫

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。どえらく良い天気でした。この週末は主に群馬県を移動していましたが、上空にほとんど雲を見なかった。秋晴れの素晴らしい週末で、赤城にしろ伊香保にしろ、群馬県の山々も上のほうはかなり明確に紅葉を始めていました。

今年の日本シリーズは第七戦までもつれて欲しかった気もします。ジャイアンツの第7戦の先発は難しかった筈なので。しかしジャイアンツの優勝は第六戦で決まってしまった。中田が3ランを打って「面白くなった」と思ったら、筋書きがあったように阿部がセンター前にヒットを打ってジャイアンツが1点アヘッド。そのまま試合は終わった。

日本ハムは詰めがやはり甘かったのだと思う。特にコーチを含めた先発陣の。1回とか2回の早い回に点を取られるケースが多かった。あれじゃ試合で主導権が取れない。第六戦もそうです。もうちょっと慎重に入ることが出来れば、もっともっと接近した展開になっていたと思う。ピッチング・コーチの責任が大きいと私は思う。日本ハムには糸井とかヨウとか良い選手がいる。なかなか良いチームだと思いました。ジャイアンツはやはり総合力でしょう。村田とかいう守備要員の選手もいるのですが、矢野にしろ寺内にしろ、レギュラーほど

には打撃を期待されていない選手が役割を果たした。

-----

それにしても、サンディがアメリカに与えた被害の大きさには驚く。いまだに260万戸が停電していて、そのかなりの部分がマンハッタンのローワー・イーストだと聞くと、「アメリカでは都市の危機管理はどうなっているのか」と思う。考えれば私もニューヨークに4年間いたが、「地下鉄が冠水に備えている」事実はなかった。だから未だにニューヨークの地下鉄に関しては「一部が開通」と報じられる。一時はガソリン価格が10倍に値上がりしたそう。日本で「台風のあとガソリン不足が生じた」など聞いたことがない。

既にアメリカでは「寒波の襲来」が予測されている。サンディ関連で既に110人近い方が亡くなったそうだが、停電のなか寒波が来ればそちらの方も心配だ。小売売上高とか鉱工業生産とかの経済統計も暫くは歪むかも知れませんね。その辺は頭に置いておきたい。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》